

東京2020大会における園芸装飾事業

目的・ねらい

東京2020大会をまたとない重要な機会と捉え、都立農業学科系高校において、育てた花苗を大会展示物として展示することで、東京2020大会の機運を醸成するとともに、園芸装飾を見に来た来訪者におもてなしの気持ちを伝えるなど、学校のもつ専門分野の特性を生かした大会参画を行うことを目的として実施。

取組・活動内容

①実施時期

令和3年度のオリンピック大会期間中に展示(栽培は令和元年度、令和2年度に実施)

②参加学校

都立園芸高校、都立農芸高校、都立農産高校、都立農業高校、都立瑞穂農芸高校において実施
島しょの都立大島高校、都立三宅高校、都立八丈高校の3校においても同じ品種の花苗を栽培

③取組・活動内容

・オリンピック・パラリンピック準備局が策定した「東京2020大会のシティドレッシング・大規模展示物基本計画」における園芸装飾について、都立農業学科系高校において、生産農家と連携しながら5品種を種から生育して花苗を育てた。育てた花苗については、オリンピック大会期間中、都立日比谷公園の第一花壇に、オリンピックシンボルである五輪の形に植え付け、展示した。

本取組・活動の成果

- 生徒からは「丹精込めて育てた苗が日の目をみられて嬉しく思う。」といった感想があった。また、教員からは「生産農家と連携することがこれまであまりなかった。生産者の技術を学ぶことができた。」といった感想があり、地域の生産農家との交流のきっかけにつながった。
- 展示を見た来訪者からは「5色の色がとても綺麗」といった声があがり、記念撮影を楽しむ来訪者も見られた。
- 本取組を通して、都立高校の農業分野の技術力の高さを披露するとともに、東京2020大会に向けた、大会の祝祭の雰囲気盛り上げることができた。

活動の様子

